

ちばしや通信

Vol.13

特集

福祉・介護における

『クオリティ（支援の質）』を考える

小規模多機能施設めおといわゆい〔福岡市〕

「地域拠点の役割から」

認知症カフェをバックアップ」

◆はじめに

福岡市城南区堤地区で事業運営する、めおといわ「ゆい」では、認知症の方を地域で支えていくためには、小規模多機能型居宅介護のみでその人の暮らしを支援完結するのではなく、地域社会全体で取り組んでいく必要が不可欠であると考え、平成18年の開設以降、運営推進会議や認知症サポーター養成講座など、様々な取り組みを通して事業所側から地域に対し発信を続けてきた。開設から9年目を迎え、現在は地域住民が主体的に行っている「認知症カフェ」の活動を支援している。

◆認知症カフェのはじまり

ある時、認知症サポーター養成講座終了後、地域の方から声をかけられた。「認知症を学んで地域で支えようと思って参加し

続けてはいるが、実際、当事者の方と出会う機会がない。この講座をやり続ける意味はあるのか」という核心をついた言葉であった。平成21年から展開している認知症事業もすでに2年の歳月が過ぎようとしていた。区の行政担当者と共に、このことについて議論し、火を絶やさないためにもやり続けていくことで合意。そこで浮かんできたのが認知症ステップアップ講座であった。地域在住のオレンジリングを手にした約500名の住民に、ステップアップ講座の参加を投げかけ、そのなかの70名程度の方々が年4回のワークショップに参加された。毎回、グループワークを展開し、これまでのもも振り返りつつ、さらに知識を蓄えていく。最終回の4回目の講座のくくりで、「じゃあ、いま、この地域にとって必要なこと、できることはなんだろう」と投げかけたとき、各グループから挙がった答えが「認知症の当事者にも、介護家族にもやさしい集いの場が必要」ということであった。堤校区にはその時点で8サロン存在しており、決して集まれる場がない訳

ではなかったが、参加者から出た意見は「カリキュラム化されていない自由気ままな柔らかい雰囲気の間。喫茶店やカフェのような気軽さがある場が必要」ということでカフェスタイルの提案がなされ、「つつみカフェ」が誕生した。

◆「つつみカフェ」の運営と

事業所との関わり

「つつみカフェ」は、毎月一回、公民館貸切で開催されるものである。オープン時間は10時～16時。無料で何杯でも何時間でもいることができるカフェである。当日のボランティアは20名～30名。オレンジリングを手にした認知症サポーターである地域住民の方々が、召集されることなく自分の意思でカフェの運営に携わっている。つつ



みカフェには、地域住民はじめ、介護サービスを利用している認知症の当事者も来店されている。見た目はわからないが重度の認知症高齢者も多数訪れ、地域の合言葉にもなっている、「認知症をやさしくつつみ（堤）こんで」につながっている。カフェをオープンしてまもなく2年になろうとしている。来客も毎回1000名程度が訪れ、延べ来店者数も軽く1000人を越えている。最近では、地域の引きこもりがちな高齢者や、このカフェに参加するためにデイサービスの利用日をずらしてまで来店される方がいるなど、地域に浸透してきている。

当事者の声をかき消すことなく、「自宅や地域で暮らし続けたい」という望みの実現に近づけるためには、専門職のさらなる



理解とともに、地域住人の意識改革が必要であると考ええる。認知症になったとたん、地域から隔絶するのではなく、つながりを保つていくためには、地域における土壌作りも必要であろう。実際、つみカフエで登録利用者が昔なじみの友人らと再会することができ、結果的に本人を支えるサポーターが増えていったのも事実である。それらを実現するためには地域住民と共に歩んでいく姿勢が大切であり、当事者意識に基づく思考、行動が不可欠である。我々専門職が担う役割や求められる姿勢は、超高齢社会が現実になったいま、大きな期待を寄せられている。



る。利用者の暮らしを地域の中で営み続けるためにも事業所と地域が歩みより、行動を共にし、音あわせをしていきながら地域の未来図を一緒に描いていくことで、理念の実現に近づけるのではないだろうか。つみカフエを続けることが目的ではない。それらのとりくみは「認知症になってもこの地で暮らし続ける」という利用者の望む暮らしを実現するための手段の一つにすぎない。地域住民にとっては、当事者を地域社会から隔離せず、共に歩み、自分の将来もデザインしていくことができるようになる。当事者意識に基づく社会参加は、ひいては介護予防や地域包括ケアシステムの実現に向けて重要なことであると認識している。



「めおといわ「ゆい」・概要」

【事業所名】めおといわ「ゆい」

【法人種類】医療法人

【事業所住所】城南区東油山1-33-7

【生活圏域人口】17,856人

【人口】人口…1,531,919人

世帯数…766,413世帯

(2015年9月1日現在)

【生活圏域の設置数】57圏域

【生活圏域の地域特徴】住宅街

【生活圏域高齢化率】25.6%

【登録定員】22名(通い12名・宿泊5名)

【登録者数】20名

【平均要介護度】3.1

【1日平均通い実人数】7.3人

【1日平均泊まり実人数】2.3人

【1日あたりの訪問回数】15回

※注 特集の原稿は、紹介する団体や関係

団体から提供される原稿、又は本会

取材の原稿等からになります。原稿

によって文体が異なる場合があります。

すので、ご承知おきください。

きもの地サロン

着なくなった着物をほどこき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。

開催日：11月23日(月)
12月11日(月)

※興味のある方は、連絡ください。
鶉嶺の家(50-0285)

ヨガサロン

健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？

旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。

開催日：12月2日(水)
12月16日(水)

※興味のある方はご連絡ください。
ありさ(50-0362)

穂垂るの会

介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。

開催日時：12月10日(木)
13:30～15:30

会場：ふれあいセンター
経費：200円(お茶代)

主催・連絡先：穂垂るの会・井上
(090-7171-1701)

心地よい関係性のバランス

※この原稿は、Junto's (フントス) C.L.C 発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

第1回 ただいまバランス失調中

誰の助けも借りることができずに必死で障害児を育てているお母さんを、見るに見かねて声をかける。「たまには人に頼ってくださいよ」するとポロポロ泣き出してしまふ。「がんばりすぎだよ、お母さん。もう少し楽をしようよ」。

インター「サポートセンターびっころ」を立ち上げた。支援費制度はもちろん介護保険もスタートする前の話だ。地域サービスがほとんどなかったもので、さまざまなニーズに応えたいと思っていたが、そのなかで最も心を砕いたのは一人ががんばりすぎている障害児の母親たちへの支援だった。

バランスというのはとても難しい。バランスよく仕事をする。バランスよく人との関係を築く。そんなことに気を配って生きてきたけれど、最近はずくづく思う。バランスが取れていることのほうが奇跡的なことなのだ。発達障害の子どもたちを見てみると、障害の重い軽いよりも、発達のデコボコがずっと深刻なことがある。できることとできないこと、わかることとわからないことが極端な人ほど、理解されにくく誤解される。バランスの悪さに障害を感じる瞬間だ。知識は山ほどもっているのに、人と関われないヘルパーや、経験だけを頼りに自信满满に仕事をこなす施設職員。これだつてバランスの悪さだと思う。ほんのちよつとバランスを調整すれば、素晴らし

い社会資源になるかもしれない。今からちよつと10年前、友人と一緒に障害のある人とその家族のためのサービスセ

ンター「サポートセンターびっころ」を立ち上げた。支援費制度はもちろん介護保険もスタートする前の話だ。地域サービスがほとんどなかったもので、さまざまなニーズに応えたいと思っていたが、そのなかで最も心を砕いたのは一人ががんばりすぎている障害児の母親たちへの支援だった。

当時「レスパイトサービス」という言葉で徐々に広がっていたサービスだが、私は「困ったときはいつでも助けるから、安心して自信を持って子育てしてください」というメッセージを届けるサービスだと解釈していた。このメッセージを確実に届けるために、「困ったときはいつでも」の柔軟性と「安心して任せてもらえる」専門性を持ち合わせる必要があった。私たちは文字通り、24時間365日、その家族にとっての安心と利用者にとつての満足を追求して、サービスを提供し続けた。そして、その安心感が届けば届くだけ、確実に家族は自分たちの考えや生き方をきちんと持つて主体的に生きるようになっていった。その家族に支えられて障害のある人自身の暮らしにも独自の輝きを感じるようになった。

私は確信していた。「よいサービスとは、使うことで利用者の本来の力を最大限に引き出すことのできるものなのだ」と。ところが、最近私の心のなかで何かが変

わつてしまった。「たまには人に頼ろうよ」

「もつと楽をしようよ」と思っていた心に、「たまには自分でがんばろうよ」「それくらい我慢しようよ」という言葉が浮かぶことがある。そうかと思えば「いつまで一心同体の親子でいるつもりなのかしら」「そろそろお母さんから自由にしてあげよう」などと思っていることさえある。いつから自分はこんな利用者の力を信頼できなくなったのかと愕然とする。家族の力を引き出し、その家族らしく主体的に生きられるよう支援してきたつもりだったのに、実は障害のある子に依存する家族を作ってきたのだからか深く落ち込むこともある。でも、気を取り直して考える。これはバランスの問題なのかもしれない。

一人ががんばりすぎるのはどうかと思うけれど、何でも人に頼りすぎるのでは自分の人生は歩めない。障害児だからと言って人に預けつぱなしでいいとは思わないけれど、だからと言って親元にとつてのことだけ幸せとは限らない。自分らしさは大切だけれど、人と違えば良いということでもない。行き過ぎたり手前で立ち止まったりしている人の立ち位置を調整する。その絶妙なポイントをみつける手助けこそ、本来の仕事だったのかもしれない。ニーズに応えることは大前提だけれど、利用者の言いなりになることだけがニーズに応えたことになるわけでもない。どうやら私のバランス感覚もずいぶん狂つてしまつていようだ。まずは見失つた自分の立ち位置を見

つけ出そう。そうだ、そうしよう。

大友愛美（おおともよしみ）

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者人権施設では地域と施設をつなぐコミュニケーションカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場（学校や研修）での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ぶだけではなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれないな…と感じている今日この頃です。

びっころ流

ともに暮らすためのレッスン

〈1, 600円＋税 絶賛販売中〉

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



「わたしの決心」

我が家には、二人、発達の遅れた子供がいる。はじめは、「ちよつと遅れてるけど、集団に入ればなんとかなるさ」と楽天的に捉えていた私も小学校入学ということを目前にして、改めて自分の立ち位置を考えた。今までずっと、福祉関係で仕事をしてきた。その仕事の中で、私がなんとなく思っていたことがある。それはなんとなく思っていただけで、その考え方が果たして正しいかどうかはわからないけれど。

私は、障害を持ちながらも在宅で暮らす人達は、地域の中でどれだけ、その人を受け入れてもらっているかで、その人の地域での暮らしやすさが決まるとなんとなく感じていた。その人を「○○さん！」と知ってもらおう、声をかけてもらおう。本人も周りの人を知る。普通に生きていればあたりまえのことだ。

だから、教育により個々の力を伸ばすということ以上に、地域のみならずふれあう、日々接する環境があたりまえのようになってほしい。そんなこともあり、私は長男を地域の学校で、他の子と毎日交流できる環境においてあげたいと強く思っていた。そして、そのために必要な力は家庭で伸ばしていくことかもしれないと思った。17年前イギリスで、障

害児の在宅ケアのボランティアをしていた私は、家庭療育で、どれだけ子どもの力が伸びていくかを目の当たりにしていたし、昨年度から我が家でスタートしたABAでも日々のアプローチで子どもが変わるということを実感していた。けれど、家の滞在時間があまりない段階では、大事だと思ったことも実践できない、そして落ち込むという悶々とした日々を送っていた。

おとめ

発達の遅れを持つ2児の母。16年続けた社会福祉の仕事に辞め、家庭で子どもの力を伸ばすこと、地域で生きること考えながら日々奮闘中。

ABA（応用行動分析）とは：

Applied Behavior Analysisの略です。ABAは、心理学のひとつですが心に焦点を当ててののではなく、人の行動の前後の出来事に着目し、行動の前後の状況を変えらることにより、行動を変えていきます。良い行動、望ましい行動を増やす為にどうするか、という視点でアプローチが行われます。



ときがね・街かど福祉塾

2011年2月より休止していた、「ときがね・街かど福祉塾」を4年半ぶりに再開いたします。

今回のテーマは、地域共生ケアです。高齢者ケアを軸として、多様な人達との関わりから地域共生ケアを考える会にしたいと思えます。ぜひご参加ください。

(問合せ先：ちば地域生活支援舎 Tel:0475-53-3630)

第2回「共に支える介護とは（高齢者×子ども）」

日時：平成27年11月23日（月）17:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：加藤忠相（あおいけあ・代表）

森田和道・真希（また明日デイホーム・寄り合い所・小さな保育園虹のおうち・代表）

第3回「共に支える介護とは（高齢者×障害者）」

日時：平成27年12月18日（金）17:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：阪井由佳子（にぎやか・理事長）

鈴木翔太（やちまた放課後クラブ ぶらんこ・施設長）



第4回「共に支える介護とは（高齢者×生活困窮者）」

日時：平成28年1月15日（金）17:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：高橋信也（冬月荘・代表）

沖山陽子（セブンエイチ・理事）

第5回「人がひとを支えるとは」（平成28年2月3日）

講師：大友愛美（ノーマライゼーションサポートセンター ころりんく東川 副理事長）

伊藤英樹（井戸端介護・代表）

第6回「地域を支える介護とは」（平成28年2月19日）

講師：川原秀夫（コレクティブ・代表）

安西順子（ひぐらしのいえ・代表）

つれづれなるまま

11月に入ってから、その名に相応しい小春日和の日々が続いている。

近年、地球温暖化による世界的な異常気象と言われる中で、日本の四季も昔と違って明確に肌で感じる事が難しく、何か、春と秋の期間が短くなっていると感じるのは自分だけであろうか、この時期の寒暖差は特に激しく、秋深し…というより初冬を感じる今日この頃である。

さて、先日の報道で、総務省の就業構造基本調査より、県内の介護離職者が5,700人であると公表された。前年同期比で36%増とのことで、年齢別では、45〜64歳が3,700人と約65%を占め、職場で責任の重い仕事を任せられる年代に集中しているという内容である。

県としては、この要因の分析と対策として、「特別養護老人ホーム（特養）の絶対的な不足で在宅介護をせざるを得ないため」と分析し、特養入所待機者、12,740人の解消に向けて、向こう3年間で特養を新たに約6,000床増やす目標を掲げた。この問題は、他の都道府県でも多少の違いがあるにしても、構造的には同様な課題を抱えており、県は政府が先般示した、新3本の矢の中で、国内総生産（GDP）600兆円、希望出生率18の実現、介護離職ゼロの数値目標を受けてのものであると思うが、今まで、示された社会保障制度改革への道筋から見れば、整合性が取

れているとは考えにくい。

特に、持続可能な介護保険制度を維持するためとして、国は、第6期介護保険事業計画・第7期高齢者保健福祉計画（平成27年度〜30年度）の期間において、介護報酬の切り下げを実施したことにより、特に施設系サービスの事業者は経営の危機に直面しているのが現状である。

但し、介護人材の確保を目的とした処遇改善交付金の増額は適切な措置だと思うが、これとて、他の産業に従事する者と比較すれば、まだまだ、低い水準にあり、国として介護人材不足について、有効な対策を打ち出し、魅力ある仕事とすべく最大限の努力を払うべきである。

施設整備にあつては、東日本大震災からの復興と、5年後の東京オリンピックに向けて多くのハード整備等々の状況から、建設資材の高騰、技術者・職人の不足等、建設関係は多くの諸問題を抱えており、待機者解消に向けての特養整備を打ち出しても、そう計画通りに進むという事は、考えられないのが現状なのではないか。

この様な時には原点に立ち返り、この計画期間と更にその先の将来に向かって、当初に示された、「誰もが、住み慣れた地域で、その人らしく。」をキーワードに、それぞれの地域の特性と社会資源を活かした、地域の再生「地域包括ケア」の実現を目指して、出来るハードは整備しつつ、今あるものを有効に活用していく創意工夫が必要であろう。

（総合施設長 齊藤 操）

コミュニティケアワーカー講座（全9回講座）

◆平成27年11月26日（木）

第1回「地域包括ケアをひも解く」 9:30～12:30

講師：山越孝浩（全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会・事務局長）

第2回「地域密着型サービスを担うケアワーカーに求められる“ソーシャルワーク”を学ぶ」

13:30～16:30

講師：石川裕子（輛の浦・さくらホーム）

◆平成27年12月2日（水）

第3回「ライフサポートプランを学ぼう」 13:30～16:30

講師：宮島渡（アザレアンさなだ・総合施設長）

◆平成27年12月16日（水）

第4回「認知症ケアは、自宅や地域での暮らしを支える実践から」 9:30～12:30

講師：竹本匡吾（地域で暮らす会・副代表）

第5回「運営推進会議から始まる地域ケアの一步」

13:30～16:30

講師：党一浩（めおといわ・ゆい 管理者）

◆平成28年1月14日（木）

第6回「地域・当事者・家族の組織化支援」 9:30～12:30

講師：来島みのり（マザアス新宿・施設長）

第7回「地域の多様な人を支えるケア」 13:30～16:30

講師：加藤忠相（あおいけあ・代表）

◆平成28年2月24日（水）

第8回「地域連絡会と自治体の協働の取り組み」

9:30～12:30

講師：黒岩尚文（浪漫・代表）

第9回「地域密着型サービスのあるべき姿」

13:30～16:30

講師：川原秀夫（コレクティブ・代表）

主催：特定非営利活動法人ちば地域密着ケア協議会

会場：千葉県経営者会館・研修室

定員：30名

参加費：無料

申込方法：まずは、お電話でお問合せください。

連絡先：043-244-2601 / 大石

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

そろそろコタツが恋しい時期となり、鴉嶺の家でも暖房器具が活動し始めました。

毎年この時期にはコタツを出すのですが、今年は車椅子の方が多くテーブルを購入したので、コタツを出すか出さないか悩んでいる所です^(^)。毎年コタツを利用してSさんすみません^(^)。今年はコタツを出せないかもしれない^(^)。

リビングにコタツがないと暖かい所はただ一つ！そうです！ヒーターの前です！今月から利用することになったYさんは来家してすぐヒーターの前へ、体を丸くしてヒーターの前から動きません。

最近よく食器洗いや洗濯ものたたみを手伝ってくれるAさんもこれ以上寒くなる⁽⁺⁾と、ヒーターの前を占領してしまうのではと、今から不安を感じてしまいます⁽⁺⁾。

これからますます寒くなります。これ以上寒くなる前に皆で紅葉でも見に行ければいいなと思う今日この頃です。



鴉嶺の家（児童）

Aちゃんは、鴉嶺の家で時々宿題をします。今年入学して、勉強するのが楽しいようです。いつの間にか、ひらがなが書けていてビックリ！一桁の足し算・引き算が出来てビックリ！嬉しい驚きを届けてくれます。勉強好きと言えば、夏休み中Bくんは、毎日のようにまず勉強してから遊んでいます。今年頑張った！

今までローマ字ばかり並べていた、英語が好きなかくんが、先日ひらがなの積み木を一列に並べていました。ひらがなにも興味が出てきたようです。

座っている事が多かったDくんは、最近つかまり立ちや、つたい歩きが増えました。手を引いて歩く際、かかどが浮きがちだったのに、自らかかどを付いて長距離を歩くようになりました。

夏休みに配膳下膳の習慣が付いたEくんは、土曜日に来ると今でも自ら皿を運んでくれます。彼は小学校2年生。お手伝いが習慣付くって凄い事です。とても助かっています。

日々色々な変化や成長を見せてくれる子ども達。スタッフは、それらに気付く喜びをもらっています。

子ども支援センターぽけっと

日に日に寒い日が増え、長袖やジャンパーなどを着る子ども達が多くなってきました。それでも、子ども達は、寒さに負けず公園へ遊びに行きます。そんな子ども達を見ると、私たちスタッフも負けてられない気持ちになります。

そんな中、ぽけっとの近所に住む子（A君）とぽけっとの子ども達数人が仲良くなり、よく遊ぶようになりました。

A君は、ぽけっとの子ども達が学校から帰ってくる前にぽけっとへ来て、帰りを待つてくれるようになりました。そして、ぽけっとの子ども達が帰ってくると、駆け寄りとても嬉しそうな表情をします。パズルやおもちゃで遊んだり、一緒に公園へ行くと鬼ごっこが始まったり、言葉は少ないけれど当たり前のように過ごす姿を見て心が温かくなりました。

このような素敵な出会いを大切に、地域の方たちと色々な形で関わっていかれたらいいなと思っています。



サポートセンタースピリッツ

最近、スピリッツでは徐々にではありませんが視覚障がい者の方と一緒に外出する『同行援護』というサービスを利用される方が増えてきました。『同行援護』は障がいの中でも「視覚」という部分に特化したものなので、研修を受けたヘルパーが同行します。

安全に外へ出て頂くため、視覚的情報をわかりやすくお伝えする心がけています。

視覚障がい者の方の気持ちを少しでも理解するために研修では、アイマスクをして様々な体験をするのですが、そのことにより、目が見えるということは本当にありがたいことだと感じる事ができます。

点字ブロックの上に自転車などの物が置かれていたり、歩きながら携帯・スマホを使っている人、歩道でスピードを出す自転車などはとても危険に感じるそうです。みなさんが「自分には関係ないや」とは思わず、誰もが住みよい環境や街になるよう私達も情報発信していきたいと思えます。

今年ハロウィンが随分盛り上がりましてね。特に目立ったのが「仮装」。幽霊やゾンビ、小悪魔やお姫様、今まで紅葉狩りが主流だったこの時期、新しい話題が増えました。といっても、ハロウィン特別仕様の菓子で、紫や赤い色のソース、目玉を横にしたものなどは見た目うーんと唸ってしまいます。デイサービスではどうしているのでしょうか？クリスマスはほとんどの事業所で行事として行われていますが、ハロウィンはこれから行事として取り込まれていくのでしょうか。いずれにしても（スピリッツの事業所でもありません）事業所は季節ごとの飾りつけをあまりしてきませんでした。道行く人の目に少しでもとまるよう、窓や扉にちよっとしたディスプレイをしてみようかとひそかに目論んでいます。



10月18日に山武健康福祉まつり、10月24日にシナリーの里秋祭りに参加しました。18日の福祉まつりの販売では、朝から天気にも恵まれて、青空の下屋外での販売となりました。晴天での販売だったからか、接客中に日焼けをしたようで、顔や首が少し小麦色になっていました。

24日のシナリーの里での販売は、屋内での販売でソーイングボックスやエコクラフト、シフォンケーキやクッキーといった、お菓子や小物などを販売しました。

この日の朝は、搬入時間に合わせていつもよりちよっと早めの登所。いつもと違う場所、時間にも関わらず、約束の時間ピッタリに出勤をし、お客さんの呼び込みや挨拶などなど笑顔で頑張っていました。



朝晩が段々と冷えてきました。風邪やインフルエンザの季節になってきました。カバの家では学園祭の準備に入りました。利用者さん7人で一生懸命作っていました。

カバパン 『つぶあん十生クリーム』

プーさん 『クリーム』

キティちゃん 『イチゴジャム』

アンパンマン 『チョコ』

カレーパンマン 『焼きカレー』

等キャラクターものがあります。

季節の『甘栗』『さつまいも』『かぼちゃ』もあります。その他いろいろなパンもあります。10月31日・袖ヶ浦特別支援学校、11月14日・東金特別支援学校、日吉台小学校の学園祭でパンの販売で参加します。

一人でも多くご家族友人知人をお誘いの上、ご来校してご賞味いただきたいと思えます。



先日、ワーナーホームさんで開催された『みんなのまつり』に参加してきました。いつもこの日を華やかに、秋のイベント出店毎週末出かけることとなります。普段作りためた商品の数々を、この日とばかりに販売します。販売に行ったメンバーの頑張りのおかげで、昨年よりも多い売上でした。

実は…『みんなのまつり』では、それは別に、毎年楽しみにしていることがありません。それはイベントの最後に行われる抽選会です。振り返ってみれば、初めて当選したのはKさん。お菓子の詰め合わせでした。昨年は『かに道楽セット』が当たってしまい、忘年会でカニ鍋パーティーをしました。ただ、10人で食べるには少ないので、カニカマや肉団子で量増ししたら肉団子がブクブクに太ってしまい、みんなお腹がち切れんばかりになってしまいました。そして今年！！なんと『豚しゃぶセット』が当たってしまいました。『今年も鍋party!!』
yeah!!



五根の家

◆小規模多機能ホーム

9月後半から10月の始めにかけて、体調を崩される方が多くいらっしゃいました。その中で、1名の男性利用者さんは、最愛の奥様や娘さんの見守られる中、入院先でご逝去されました。スタッフ一同、ご冥福をお祈り申し上げます。他にも体調の回復がなかなかされず、入院が長引いている方がおり、一日も早いご回復を願っています。また、特別養護老人ホームへの入居が決まって移られる方もおられました。

最近の状況から改めて思うことは、小規模多機能ホームでは、住み慣れた自宅で安心して暮らし続けられるように必要な支援をご家族や地域の方々と一緒に協働しながら行うことを大切にしており、少しでもご本人の望む暮らしの実現にお付き合い出来たらと思っています。

話は変わりますが、今年も皆さんで落花生の殻むきを始めました。むいた豆はハンドワークで仕分け・煎る・袋詰めをして『ごんまめ』の商品になります。年末くらいには1回目の商品が出来たらと思います。楽しみにして下さい(〇)

◆グループホーム

10月3日に中央消防署立会で、防災訓練を行いました。当日は数名のご家族の方にもお越し頂き、実際の様子を見学して頂き

ました。お年寄りの方々は車椅子の方が多く、介助の手もたくさんいる状況です。地域の方々にも防災訓練のお声掛けをして、地元の区長さんや社会福祉協議会の方々、お隣のヒガシヤマハウスの方、近所のご利用者のご家族にも参加ご協力頂き、ありがとうございました。後ほどの反省では、避難経路の整備(中庭が芝生や土で車椅子の操作が困難である事)や避難箇所を増やす必要性など、率直なご意見を頂きました。出来る事から改善していきたいと思えます。改めて感じた事は、災害を未然に防ぐ事や、いざという時に助け合える地域とのつながりを持つ事が大切だと思いました。日頃から地域の方々たくさん交流を持てるようにしたいと思います。

スタッフ・ボランティア募集

◆主な内容

- ①子どもの遊び相手 ②お年寄り障がい者の話し相手 ③外出の付き添い
- ④食事づくり ⑤障がい者の就労活動の手伝い

◆曜日・時間

月曜日～日曜日の可能な曜日

午前8時～午後9時の間で可能な時間帯

◆条件 週2回以上働ける方・活動できる方

※希望される方は、ご連絡ください。

地域福祉情報・相談センターりんく

営業：午前10時～午後8時
場所：東金ショッピングセンター
「サンピア」内1階(ステージコート脇)

内容：福祉、介護、子育て、ボランティア
・市民活動に関する情報提供、相談

★福祉・介護・子育て等に関する情報の掲示・配布をご希望の方は、本会までご相談ください。

【法人事務局】

電話 0475(53)3630
(月～金/午前10時～午後5時)



法人事務局

11月より、「地域福祉情報・相談センターりんく」と「街かど福祉相談室」とに相談員が入りました。



藤田 実

編集者のつぶやき

- ◆今年も残すところ2ヶ月。1年が経つのが本当に早い。同じ一年なのに何故か、年々早くなっているように感じます。不思議なものですね。しかし、目の前に積み重なった仕事というのか？ミッションといった方がいいのか？わかりませんが、なかなか終わりません。まあ、終わるものなのか？もわかりませんが、とにかく将来の地域(東金)のためコツコツとがんばろうと思う毎日です。それにしても、時間が足りない・・・(Jerry)
- ◆ちばしゃ通信の作成を始めてから1年が経ちました。第1号に比べるとページ数も増え、お伝えできる情報や様子も増えました。1年前は初めてのことがばっかりで不安でしたが、各事業所の協力のお蔭で、毎月の発行を続けることができました。今は、どんな情報が集まるんだろうとワクワクしています。これからも様々な情報や様子を伝えられるように頑張ります。(W)



ちばしゃ通信 (Vol.13)

発行日：2015年11月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630